

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.155



2006.12

- シリーズ“すばらしい本の世界”
- セミナー報告
- シリーズ“！”第22回
- 教員等著作寄贈図書一覧
- アンケート結果報告
- 城北図書館見学報告
- 図書館の動き
- 開館日程（12月～3月）



人生を決めた本 —シュリーマンとの三たびの出会い—



澤田 典子

人生を決めるような一冊の本に若くして出会えたとしたら、それは実に幸福なことだろう。私の場合、「人生を決めた」とまで言い切れるかどうかはわからないが、古代ギリシア史の研究者である私がこの道に進むにあたっての大きな契機となったのは、トロイやミケーネを発掘した考古学史上の巨人ハインリヒ・シュリーマン（1822－1890）の自伝『古代への情熱』である。

私が最初に古代ギリシアという世界に魅せられるようになったきっかけは、子供の頃に読んだギリシア神話の本だったかもしれないし、中央アジア探検家として名高いかのオーレル・スタインがアレクサンドロス大王のアジア遠征路を辿って記した一連の踏査記だったかもしれないし、あるいは、テレビの洋画劇場で見た往年の名作『ベン・ハー』（舞台は古代ローマだが）だったかもしれないし、あまり定かではない。しかし、古代ギリシアの研究を生涯の仕事にしようと決めたのが、中

学生の時に読んだ『古代への情熱』に綴られたシュリーマンの生き方に大きく影響されたことだったのは確かである。

現在人文学部で担当している西洋史概説などの講義で、シュリーマンの生涯や業績についても触れているが、学生さんから、「先生はほんとにシュリーマンが大好きなんですね」という感想をもらうことがある。よほど嬉しそうに講義でしゃべっているのだろう。シュリーマンの波瀾万丈の生涯を綴った『古代への情熱』は、欧米では偉人伝の古典的ベストセラーとして有名で、この本を読んで考古学者を志す人は跡を絶たないという。幼い頃にトロイ戦争を謳ったホメロスの叙事詩と出会って感激し、将来トロイを発掘するという夢を抱き、貧しく苦しい少年時代を経て商人として成功し富を築いたのち、中年になって商売から身を引き、幼い頃からの夢であるトロイ発掘に後半生を捧げ、そして見事その夢を実現した、というシュリーマ

ンの立身出世譚はあまりにも有名である。『古代への情熱』のなかで、シュリーマン自身が書いた「自伝」に相当する部分は第1章の「少年時代と商人時代」だけで、トロイやミケーネでのシュリーマンの発掘を扱った第2章以降は、シュリーマンの没後に彼の友人の手によって綴られたものである。第1章には、トロイ発掘の夢をしっかりと心に抱きつつ逆境と闘い続ける彼の前半生が実に生き生きと描かれており、中学生だった私の心をとらえたのも、とくにこの部分だった。シュリーマンをそれほどまでに惹きつけた古代ギリシアという世界に私も強く惹かれ、この世界のことを勉強してみたいという気持ちをいつしか抱くようになったのである。

そして大学時代に古代ギリシア史研究の道に足を踏み入れた私にとって、シュリーマンとの二度目の「出会い」は、1995年夏に訪れた。当時アメリカの大学院に留学していた私は、その夏、アテネのアメリカ古典学研究所のサマープログラムに十数人のアメリカ人の大学院生たちとともに参加した。アメリカ古典学研究所に付設するGennadius Libraryは、ギリシアに関する様々な研究分野の資料が豊富に揃っている充実した図書館だが、シュリーマン関係の資料も多い。忘れもしない6月17日の夕方、私たちは、館長の御好意で、普段は絶対に触ることのできない貴重な秘蔵資料を手にとって見るというチャンスに恵まれた。厳重に鍵のかかったケースから出されたシュリーマンの直筆の日記やスケッチブックを、手にとって心ゆくまで眺めることができたのである。独学で十数か国語を完全にマスターしたという驚異的な語学力で知られるシュリーマンの日記帳には、日々の出来事が実際に様々な言語を駆使して綴られていた。黄ばんだ紙に丁寧に描かれた土器のスケッチは、百年以上の時を経て、インクが少し色褪せていた。それらに触れていると、知らず知らず涙がこぼれてきた。まわりを見まわすと、涙ぐんでいる仲間も多かった。その後、図書館の庭でワイングラスを片手に夜が更けるまで皆で感動を語り合ったが、宿舎に戻ってから、この感動を

誰かに日本語で思いきり伝えたり、当時在外研究でアテネに滞在していた先輩に深夜に電話をかけて、半分涙声でしゃべりまくったりもした。生涯を通じて膨大な量の日記を残したシュリーマンにならって（？）、私も幼い頃から現在に至るまで一日たりとも日記を欠かしたことないが、1995年6月17日の私の日記には、この日の感動が克明に綴られている。シュリーマンのぬくもりが残っているような直筆の日記やスケッチにじかに触れて、長年の憧れの偉人が少し身近になったよう感じられた「出会い」だった。

そして4年間の留学生活を終えて帰国した頃、上記の先輩から、アメリカの古典学者トレイルの画期的なシュリーマン伝である『シュリーマン—黄金と偽りのトロイ』の共訳に誘ってもらった。おそらく、あの日の興奮した私の電話が先輩の心中にも残っていて、声をかけてくれたのだろう。これが、シュリーマンとの三度目の、いささか衝撃的な「出会い」となった。

没後百年を経て、シュリーマンに対する関心は近年世界的に高まっているが、シュリーマンの「嘘」を暴くという方向での論争も盛んになっている。シュリーマンが幼い頃からトロイ発掘の夢を抱き続けていたという有名なストーリーも、実は中年以降に彼がでっちあげた全くの作り話だったらしい、ということも明らかになってきている。シュリーマン研究の第一人者であるこのトレイルの本は、シュリーマンが残した膨大な量の日記や往復書簡、発掘報告書などの資料を丹念に調べあげ、彼の業績をひとつひとつ徹底的に検証して、シュリーマンの全生涯を忠実に追った書である。シュリーマンの「嘘」についての近年の研究動向は私もある程度は知っていたが、古代ギリシア史研究者であってもシュリーマン研究者ではない私にとって、トレイルの本の訳業を通じてその最先端に触れることができ、まさに「新たな」シュリーマンに出会うことになった。

トレイルの克明な分析からは、病的なまでの虚言癖があり、極めて強い自己顕示欲にあふれた、山師的なシュリーマン像が浮かび上がってくる。

中学生の頃の私のように、『古代への情熱』に語られている夢とロマンに満ちたストーリーを信じていた読者にとってはショックな内容だが、しかしこの本は、故人の業績を貶めるような、単なる暴露ものや中傷ものでは決してない。これまでいわば神話化されてきた巨人シュリーマンからその「神話」のヴェールを剥ぎ、等身大のシュリーマンの実像に迫りながら彼の業績を真に評価しようという試みなのである。

確かに、シュリーマンの発掘方法には多くの不備があったが、現在のような、チームによる科学的な発掘調査の方法が確立していない19世紀にあって、それはシュリーマンひとりが責められるべきことではない。また、トレイルが明らかにしているように、彼の発掘にはいささか詐欺まがいの「演出」があり、遺物の発見経緯にも不透明な部分があったが、それは、日本の考古学界最大のスキャンダルと言われる数年前の旧石器発掘捏造事件などと同列に論じられるべきものでは決してなく、シュリーマンが古典古代とは異なるギリシア

の先史文明の存在を実証したことはまぎれもない事実である。ギリシア考古学に黎明をもたらしたシュリーマンの功績は、どれほど高く評価しても評価しすぎることはないだろう。

トレイルの本を通して、これまで私にとって完全無欠のヒーローのような存在だったシュリーマンが、多くの挫折を味わい、様々なコンプレックスや弱さをかかえながらも偉大な業績を成し遂げた、血の通った生き生きとしたひとりの人間として私の前に立ち現れた。三たびの「出会い」を経て、私はシュリーマンがますます大好きになり、シュリーマンが愛した古代ギリシアの研究という道に進んでよかった、と心から思えたのである。

(人文学部・歴史文化コース)

【紹介された本】 静=静岡本館 浜=浜松分館
 『古代への情熱』(岩波) シュリーマン著
 静／開架[289.3/SC4/B] 浜／発注中
 『シュリーマン—黄金と偽りのトロイ』
 デイヴィッド・トレイル著
 静／開架[389.3/SC4T] 浜／発注中

平成18年度 秋

図書館利用セミナー（アドバンス編）と 電子ジャーナル・データベース利用説明会の実施報告

「図書館利用セミナー（アドバンス編）」では、日本語論文の検索実習を中心に図書館で利用できるサービス（相互貸借や文献複写）等を紹介しました。

図書館のより効率的な利用のため、ペイシック編の受講後に参加していただくセミナーとして開催しました。図書館で利用できる論文検索データベース MAGAZINPLUS や CiNii の利用方法などを知つてもらうことができたと思います。

◇目的：レポート・論文作成に必要な文献や情報の探し方を習得する。

◇実施期間：10月30日(月)～11月2日(木) ◇14:30～15:30 (60分)

◇参加人数：計16名 *報告の詳細は図書館HPに掲載します。

「電子ジャーナル・データベースの利用説明会」は、専門の講師を招いて開催中です。専門分野に特化した内容で検索実習ができ、学習や研究にお勧めの説明会です。

心理学の文献を探せる PsycINFO(11/14) に始まり、化学分野を中心に幅広い研究に役立つ SciFinder Scholar(11/16・17)、法律情報や判例を探すための LLI/DB(11/22)、LEX/DB(12/1)と各種データベースの利用方法がとても良くわかる利用説明会となっております。エルゼビア社が提供する電子ジャーナル Science direct(12/6)では、論文のフルテキストを検索するテクニックを学びます。

☆図書館セミナーや説明会についての希望・要望は図書館カウンタへご相談ください。

シリーズ “!” 第22回

知識探索支援サイト “JapanKnowledge”

信頼性の高い最新の情報を探すことができるから、このサイトの活用を推薦します！

JapanKnowledgeとは？

百科事典、用語事典、人名辞典、国語辞典、英和・和英・英英辞典など17種類の辞書・事典を一括検索(OneLook)できるだけでなく、「週刊エコノミスト」などの記事検索、学術サイトのURLや書籍検索のほか多彩なコンテンツを閲覧できます。映像や音楽などのマルチメディアコンテンツも集められていて、どんどん広がる知識世界に驚くこと間違いなしです。

豊富なコンテンツを有するこのサイトは、学習や研究、日常の調べものにも役立ちます。情報は定期的に更新が行われるので最新の状態で探せます。例えば、「日本大百科全書(ニッポニカ)」は毎月更新されて、注目の項目がピックアップされています。就職活動のための企業情報収集に「会社四季報」(年4回更新)、経済雑誌の「週刊エコノミスト」(毎週更新)、人名辞典にもまだ載っていない時代の先駆者について知りたいときは「JK Who's Who」(毎日更新)といろいろ利用可能です。

詳細はジャパンナレッジホームページをご覧ください。<<http://www.japanknowledge.com>>

☆それでは早速、ログインしてみましょう！

図書館ホームページのデータベースから「ジャパンナレッジ」を選んでください。ジャパンナレッジのトップページからログインボタンをクリックするとOneLook検索画面が表示されます。

A-Search の詳細検索では検索条件を組み合わせて主要な10のコンテンツを検索できます。

- ◇記事・企業情報…「JK Who's Who」、「会社四季報」、「週刊エコノミスト」等
- ◇カルチャー…「東洋文庫」、「江戸明治東京重ね地図」等
- ◇ライブラリ…「映像記録1908-2005」、「大自然ビデオライブラリ」、「Rand McNally世界地図」、「国旗・国歌総一覧」等

The screenshot shows the JapanKnowledge homepage with a search bar and several search buttons. A callout box on the left explains the A-Search feature, and another on the right explains the OneLook search feature. A large green callout box at the bottom right provides tips for using the search interface.

JapanKnowledge
Encyclopedias, Dictionaries and Databases

OneLook A-Search 記事・企業情報 カルチャー ライブラリ

検索語を入力し、ボタンを押してください [検索のヒント]
オアシス カレーズ

□見出し □見出し+キーワード ○全文 スペースをAND検索を使う

「辞事典の検索」、「記事の検索」、「URLの検索」、「書籍の検索」が可能です。

複数の言葉を組み合わせて探す時はここにチェックを入れましょう！

OneLook検索では、検索窓に検索したい言葉を入れてクリックするだけ！見出しに含まれる言葉から全文まで、検索対象の幅を広げて探せます。

【ワンルックできる辞書・事典】◆日本大百科全書(ニッポニカ) ◆デジタル大辞泉 ◇数え方の辞典 ◆情報・知識imidas
◆現代用語の基礎知識 ◇亀井肇の新語探検 ◇JK Who's Who ◆日本人名大辞典 ◇会社四季報 ◇科学技術略語大辞典
◇プログレッシブ和英中辞典 ◆ランダムハウス英和大辞典 ◆プログレッシブ英和中辞典 ◇最新英語情報辞典
◆Encyclopedia of Japan ◆COBUILD英英辞典 ◇CAMBRIDGE英英辞典 【◆は詳細検索でも検索可能な辞書・事典】

「オアシス」AND 「カレーズ」で
全文を対象に検索した結果 5件ヒット！

「オアシス カレーズ」の検索結果(5件)

1. 泉 (日本大百科全書)
2. オアシス (日本大百科全書) →
3. 新疆(ウイグル自治区) (日本大百科全書)
4. トゥルファン (日本大百科全書)
5. ピチャン (日本大百科全書)

関連する項目や URL
へも導いてくれます。
自分なりに工夫しながら、有効な活用方法
を習得することも、楽しいと思います。

もうひとつご紹介です。
就職活動中の皆さん！
ぜひ、試してみてください。

オアシス おあしす

目次:

オアシス

1. 泉性オアシス
2. 山麓オアシス
3. 外来河川オアシス
4. 人工オアシス



■ ビカ・
オアシス
(アタカマ
砂漠)



■ インペ
リアル・ダ
ム



画像へのリンクをクリックすると、
拡大して見ることができます。

oasis

砂漠で利用可能な水がつねに得られる所。水量が多いオアシスでは農耕が可能であり、またエジプトのカイロやシリアのダマスカスなど、大都市も多く発達している。水の存在状態から泉性オアシス、山麓(さんろく)オアシス、外来河川オアシス、人工オアシスの四つに分類される。

記事・企業情報の検索で会社四季報を読んでみよう。

会社名に「ソフトバンク」と入力して検索すると →

OneLook A-Search 記事・企業情報 カルチャー ライフ

会社名・コード・業種を入力してください

会社四季報 ソフトバンク 会社を探す

▲ 記事・企業情報のトップへ戻る

| 業種別一覧 | 50音別一覧 |

水産・農林業、鉱業、建設業、製造業…、気になる業種で各社を比較・研究してみるなど、目的に合わせて活用しましょう。

会社四季報 2006年06月15日号

ソフトバンク

そふとばんく
9984 卸売業

【決算】 3月中配

【設立】 1981.9

【上場】 1994.7

【特色】 本体は純粋持株株

☆ジャパンナレッジへは学内にて図書館ホームページのデータベースからアクセスしてください。
アクセス可能数は各キャンパス1人です。利用が終わった時には必ずログアウトをお願いします。

“!” + α

OXFORD JOURNALS 137タイトルをオンラインで提供！

Oxford University Press刊行雑誌の137タイトル（1849–1995年まで）が全文閲覧可能となりました。収録分野は人文科学、法律、医学、科学、社会科学など多岐に渡ります。

国立情報学研究所の電子ジャーナルリポジトリ（NII-REO）のページからアクセスできます。

雑誌一覧⇒出版社別⇒OUP (Oxford University Press)
電子ジャーナルタイトル一覧にも載っています。



* NII-REOへは図書館HP内の電子ジャーナル提供者サイトよりリンクが貼られています。

<<http://reo.nii.ac.jp/journal/HtmlIndicate/html/index.html>>

～教員著作寄贈図書一覧～

●本館受入

◇阿部圭一（名誉教授）

- ・明文術：伝わる日本語の書きかた

NNT出版 静・開架[816/A12] <著>

◇有泉宇宙（非常勤講師）

- ・アーサー・ミラー：Arthur Miller 1915-2005
勉誠出版 静・開架[932/MI27A] <著>

◇伊藤宏二（教育学部）

- ・ヴェストファーレン条約と神聖ローマ帝国：ドイツ帝国諸侯としてのスウェーデン
九州大学出版会 静・開架[234.05/I89] <著>

◇小和田哲男（教育学部）

- ・賢妻・千代の理由 日本放送出版協会
静・閉架[210.47/O93] <著>

◇藤原靖名（名誉教授）

- ・随筆集こはぜの環 [藤原靖名]
静・閉架[914.6/F68]
- ・随筆集ゆとり心は鉄道にも[藤原靖名]
静・閉架[914.6/F68]

◇熊野善介（教育学部）

- ・平成16年度静岡エネルギー環境教育研究会最終報告書：(財)社会経済生産性本部エネルギー環境教育情報センターエネルギー教育調査普及事業 静岡エネルギー環境教育研究会
静・閉架[501.6/SH94] <研究会代表>

◇竹之内裕文（農学部）

- ・哲学の問題群：もういちど考えてみること
ナカニシヤ出版
静・閉架[100/A93] <8章執筆>

◇林部敬吉（工学部）

- ・父と娘の心理学：見えない心を見る 酒井書店
静・開架・静・閉架[140.4/H48] <著>

◇船橋恵子（人文学部）

- ・育児のジェンダー・ポリティクス 勁草書房
静・閉架[367.2/F88] <著>

◇松本繁樹（名誉教授）

- ・焼畑研究雑考：赤石山地のかつての焼畑をめぐって 静岡新聞社
静・閉架[612.154/MA81] <著>

◇南富鎮（人文学部）

- ・文学の植民地主義：近代朝鮮の風景と記憶
世界思想社 静・閉架[334.5/N48] <著>

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご惠贈していただいた図書を一覧にしたものであります。(各館五十音順)

◇南山浩二（人文学部）

- ・「さよなら」のない別れ別れのない「さよなら」
学文社 静・開架[141.6/B66] <訳>

◇三富紀敬（人文学部）

- ・欧米のケアワーカー：福祉国家の忘れられた人々
ミネルヴァ書房
静・開架[369.1/MI62] <著>

◇矢野敬一（教育学部）

- ・慰靈・追悼・顕彰の近代 吉川弘文館
静・開架[385.7/Y58] <著>

◇山口幸洋（元教授）

- ・新居書留帳 地域の暮らしを記録する会
静・閉架[215.4/TI2/5] <執筆>

◇山本義彦（人文学部）

- ・清沢冽：その多元主義と平和思想の形成
静・開架[289.1/KI91Y] <著>

●分館受入

◇江間義則（工学部）

- ・わかるアナログ電子回路 日新出版
浜・開架[549.3/W25] <著>

◇武田和宏（工学部）

- ・統合学入門：蛸壺型組織からの脱却・複雑な問題を解く仕組みをつくれ 工業調査会
浜・開架[336/N31] <編・執>

●本館・分館共通受入

◇荒川章二（情報学部）

- ・浜松まつり：学際的分析と比較の視点から 岩田書院 静・浜・開架[386.154/H24] <著>

◇大野旭（人文学部）

- ・アルジャイ石窟1号窟出土モンゴル語古文書に関する歴史人類学的研究
(科学研究費補助金研究成果報告書)
静・閉架/浜・開架[222.6/Y72] <研究代表>
- ・近現代におけるモンゴル系諸集団とイスラームの関係について (科学研究費補助金研究成果報告書)
静・閉架/浜・開架[222.6/Y72] <研究代表>

◇熊谷滋子（人文学部）

- ・言語学とジェンダー論への問い合わせ：丁寧さとはなにか 明石書店
静・閉架／浜・開架「801.03/MI27」 <訳>

電子ジャーナルおよびデータベースに関するアンケートを実施しました！

電子ジャーナル・データベースに関して、皆さんの満足度、ニーズを把握し、今後の整備の参考とさせていただきましたため、全教員および大学院生を対象にアンケートを実施いたしました。実施期間は平成18年10月2日から10月23までの約3週間で、教員395名（回収率55%）、大学院生302名（回収率19%）より回答をいただきました。集計結果のうち、電子ジャーナルの一例を簡単に紹介します。

- ・現在本学が導入している電子ジャーナルのタイトルにどれくらい満足していますか？の問い合わせ、「大変満足している」「まあまあ満足している」を合わせると約55%で、「やや不満」「大変不満」の合計は約45%であった。必ずしも満足度は高くないと言える。
- ・今後も本学で電子ジャーナルを充実していくことを希望しますか？の問い合わせに対して、約88%が更なる充実を希望していることがわかった。
- ・新規導入を希望する具体的な電子ジャーナル名やコレクション名を質問したところ、実に多種の回答が得られたが、特に「Nature」「Science」の希望が突出していた。

このアンケートにより、本学における電子ジャーナル・データベースに対する意識や現状、また問題点などをうかがい知ることができました。アンケートへのご協力ありがとうございました。予算が厳しい状況ではありますが、限られた予算の中でいかに必要な電子ジャーナル・データベースを選択するか、大学全体として調整をはかりながら整備してゆく必要性を強く感じております。なお、詳細な集計結果は図書館ホームページ等で公開する予定です。

浜松市立城北図書館見学会報告

平成18年10月1日(日)に新装開館した浜松市立城北図書館の事前見学会（平成18年9月6日開催）に参加してきました。新城北図書館は旧城北図書館の老朽化により移転が行なわれました。見学会では城北図書館の特徴を聞き、館内を見学しました。まだ作業途中でしたが、明るく開放感がありました。城北図書館の特徴は「ビジネス支援コーナー」、「個人・グループ研究室」、「声のライブラリー」、「コンピュータ制御の自動閉架書庫」、そして音楽資料コーナーの充実、ユニバーサルデザインに対応した構造だそうです。

今回の改築とあわせ、浜松市ではシステムの統合、ネットワークの構築を行い、ICタグによる蔵書管理を導入しました。ICタグにより、貸出・返却処理を迅速に行い、また、新管理システムにより21館1分室の蔵書、約200万冊を管理出来るようになりました。それにより、市立図書館でのICタグ管理蔵書数は全国一になったそうです。



図書館の動き

第53回国立大学図書館協会総会

＜平成18年6月29日（木）於：学術総合センター一橋記念講堂＞附属図書館長、図書館情報課長が出席。

92大学・機関が出席し、新規及び大学再編・統合による新期加入、平成17年度決算報告、平成18年度事業計画(案)、国大図協記念基金規程の制定、

平成18年度予算(案)などについて協議が行われた。また、文部科学省研究振興局情報課長から、第3期科学技術基本計画の概要、学術情報基盤の今後の在り方について、平成19年度概算要求、文部科学省における学術情報流通施策などについて所管事項説明があった。

第60回<2006年度>

東海地区大学図書館協議会総会

<平成18年7月7日(金)於:名城大学>

図書館情報課長出席

50大学が出席。平成17年度事業報告および同決算報告・監査報告、学術情報基盤の今後の在り方、学術機関リポジトリについて報告があり、新規加盟館承認、役員館選出、平成18年度事業計画・予算、次年度総会当番館、東海地区図書館協議会の事業について協議が行われた。また、永年勤続者表彰があった。引き続き午後には「知の連携と大学図書館の整備」をテーマとする研究集会が開かれ、名城大学副学長の原彰氏による基調講演「書名が与える研究への影響、冬虫夏草とは?」、早稲田大学図書館総務課長の中元誠氏による講演「私立大学における学術情報基盤整備の状況:早稲田大学の事例を中心として」とディスカッションがあった。

平成18年度第2回静岡大学附属図書館委員会

<平成18年7月6日(木)>

○審議事項

1. 本館ワーキンググループ及び浜松分館ワーキンググループの構成員改定について
2. 平成17年度図書館経費決算について
3. 平成18年度図書館経費予算(案)について
4. 平成18年度学生用図書購入費の配分(案)等について
5. その他
 - 1) 電子ジャーナル及び二次資料データベースの導入について

開館日程 [2006年12月~2007年3月]

12月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23*
24*	25	26*	27	28	29	30
31						

2007年1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



平日開館 9:00~22:00

休日開館(土・日・祝日・振替休日) 9:00~19:00

平日開館(冬季休業期間中) 9:00~17:00

休館

- * 12/23~24計画停電のため本館休館いたします。
- * 12/26計画停電のため分館休館いたします。
- ※ 3/22~3/31は蔵書点検のため休館いたします。
- ※ 開館日・開館時間は変更されることがあります。
臨時に休館する場合は別途お知らせします。

● 冬休みの長期貸出を実施します

平成18年12月9日(土)から平成18年12月26日(火)までに貸出した図書の返却期限日は
平成19年1月12日(金)

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第155号 (平成18年12月1日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

